

袴田さん

前を向き

一歩一歩



自宅で親戚の子どもに目を細める袴田さん。その様子をカメラが捉える。7月、浜松市

ドキュメンタリー映画完成

1966年に静岡県で起きた一家4人殺害事件で死刑判決が確定後、昨年3月の再審開始決定で、48年ぶりに釈放された袴田さん(79)のドキュメンタリー映画「夢の間の世の中」(199分)が完成した。金聖雄監督(52)は「袴田さんの人生とは何なのか。映画をつくりながら考えさせられ続けた」と話す。

金さんは釈放の翌月、昨年4月に取材を始めた。「逮捕から48年。全てを否定され、死刑におびえて生きてきた重さを想像することなんてできるだろうか」。悩みながら、浜松市で姉のひで子さん(82)と暮らす袴田さんのもとに通い始めた。

長年の拘禁生活で精神を病んだ袴田さん。撮影中にも、ときに自らを「最高裁長官」や「ハワイの王」と名乗ることもあった。ただ次第に、散歩に出かけ

て好物の菓子パンをほおぼったりする日常的な時間も楽しむようになったという。

静岡地裁の再審開始決定に検察側が不服を申し立てたため、今も東京高裁では再審を始めるかどうかの審理が続く。そんな事情をよそに、袴田さんはひで子さんと静かに暮らしている。

自宅に来た子どもに優しい目を向け、「世界は平和でなくちやいかん」と漏らす姿も。金さんは「袴田さんは警察や世の中への仕返しではなく、子どもたちの幸せな未来に関心を向けていた。前を向き、一日一日を生きる。そのありのままの姿が、何より強烈なメッセージになるはずだ」と話す。

映画は来年2月27日から東京・ポレポレ東中野で先行上映され、順次、全国公開される。

(高橋淳)